

ワークショップグループ意見から 瀬戸に人が集う”核”にする！

外に学び、内から元気になる！！

瀬戸の繁栄 近現代の再現

(Aグループ)

毎日開いている 集いの場

(Cグループ)

→住みたいまちへ

(Dグループ)

旧山繁商店の印象

古い建造物の魅力

- 全体
 - ・明治～戦後の各時代を物語る建物が同居
 - ・今は朽ちた感じだが繁栄していた時期の表情を垣間見ることができる
- 離れ・堀
 - ・落ち着いた感じがいい
 - ・木造建物のよさが凝縮
 - ・皇室の宿泊所としての歴史を偲べる
 - ・北側に貴重な数寄屋空間。御手洗が素敵
 - ・2階からの眺望がよい
 - ・部材はいいものを使い、上質な空間
 - ・石垣の扇形が面白い
- 旧事務所
 - ・西の表玄関。明治大正の商店のミセ構え
- 新小屋
 - ・今のままで雰囲気がある。使いやすそう
 - ・蔵造りが特徴的で存在感が大きい
 - ・2階の空間がおもしろいが、床が不安
- 3つの倉庫群
 - ・合板で覆われているが、いいものが隠れていそう
 - ・洋小屋の架構がおもしろい
- 土蔵
 - ・プロポーションがよい
 - ・可愛い建物でシンボルになりそう
- 事務所
 - ・東の表玄関。昭和の事務所の佇まい

広い建物・敷地の空間

- 全体
 - ・敷地が広い。瀬戸ではめずらしい広い平坦地
- 3つの倉庫群
 - ・奥倉庫の広い空間に可能性を感じる
- 主屋跡の空間
 - ・広々とした青空空間

周辺とのつながり

- ・駅から歩いて来れるのは魅力
- ・周辺の町並み風景とのつながりも重要
- ・駅からの街路を歩くと、突き当りに離れが現れる
- ・坂の上からまちを眺めるすてきなロケーション

(Bグループ)



今後の進め方 ほか

- ・十分な駐車場が確保されるべき
- ・若い人に知られていない「山繁」をPR
- ・子どものことも忘れないでほしい
- ・コストはかかっていくので、寄付・募金集めも考えるべき。経済性の視点が必要
- ・近現代の歴史の調査・整理をもっと進める
- ・細かな市民ニーズをすくい上げる仕組みづくりが必要。何回も話し合って
- ・市民主体の施設に
- ・多様な市民のために (EPA-カフェデザイン)
- ・取組段階の情報も発信して国内外で検討

こんな場所になったらいいな

全体

- ・瀬戸らしいものPRスペース
- ・食事、瀬戸の器や食材・食文化
- ・やきもの流通の歴史をわかるような博物館
- ・陶芸に関する図書を見ることができる施設
- ・駅から歩いて来れる作陶体験場
- ・アートと商品をつなぐ仕事場。ギャラリー
- ・地域の文化・歴史を現代らしく (カフェにデザイン) 伝える施設に。「瀬戸」を感じながら憩う場
- ・地域空間として生活・産業・文化に寄り添う場
- ・一人暮らしの人が気軽に立ち寄れる場に
- ・地域の人、他地域からの人も楽しめる施設に
- ・大人だけでなく子どもにとっても楽しい遊べる場所に。子育ての場
- ・瀬戸の上質な器でおいしい和食がいただける店がほしい
- ・レンタルスペースとして貸し出す (会議場、パーティ会場)

離れ・堀

- ・外部の人が泊れるゲストハウス
- ・2階の和室で茶会・落語会・日本料理店
- ・蕎麦屋、宴会場、飲食店

新小屋

- ・カフェや体験学習の場に
- ・2階の空間がおもしろいが、床が不安

3つの倉庫群

- ・少人数対象のホールができそう (音楽・芝居・落語)
- ・修学旅行の生徒さんを対象に陶芸体験教室を開催

主屋跡の空間・お弁当を持って集える広場

周辺とのつながり

- ・西側の旧メインルートを活かし、駅から宮前へのルートのポイント施設に
- ・無風庵、久米邸、川本榎吉邸などつなげて、連携した展開を考える (お抹茶飲み比べ、クイズラリーなど)